

# 平成26年度事業報告

社会福祉法人 嬉 泉

## 1. 事業概況

### (1) 法人全体

平成26年度は、石井哲夫前常務理事が平成26年5月28日に急逝するという大きな出来事があった。石井前常務理事は、須藤晃弘初代理事長と共に本法人を設立し、爾来法人の運営する全ての事業の執行責任を、全職員のリーダーとして、また支援者のスーパーバイザーとして、一身に負ってきた法人最大の功労者であったことは周知の通りである。そこで本法人としては、故人の功績に報いるべく、日本保育協会との共催による法人葬という形で、「石井哲夫を偲ぶ会」を青山葬儀場にて平成26年6月21日に挙行了。当日は、故人と関係の深い各界の方々から弔事及び代表献花を賜ったほか、多数の方々にご参列いただいた。

新規事業への取り組みについては、第1に袖ヶ浦の地域生活支援センターたのしみにおける児童発達支援事業の事業拡大を行い、定員10名の「ヒツジ・グループ」を新たに設置し事業を開始した。第2にトスカの地域支援機能強化として3名が増員され、東京都と連携・協働した。第3に大田区立こども発達センターわかばの家の相談支援事業所と療育事業の分室を開設した。また袖ヶ浦市福祉作業所うぐいす園の指定管理者募集に応募し、平成27年度からの事業者指定を受けることができた。

法人の全事業数は、25事業となり、職員数は、常勤340人、非常勤142人、総勢482人となった。そのため前年度に引き続き運営体制の合理化に向けた管理システムの拡充、職員の資質の向上を目指して研修体制の充実を図ってきた。特に事業が拡大してきていることから、管理者層の育成が重要となってきており、園長会での指導、主任・主任補層への研修の機会を設けるなど研修体制を強化した。

また石井前常務理事の急逝により、その跡を請ける事業執行体制の整備が急務となったことから、平成26年6月19日開催の理事会において、石井啓理事を常務理事に選任し、併せて法人傘下の7つある事業拠点の責任者として場長をそれぞれ任命し、その場長から構成される「場長会」を当面の執行機関と位置づけた。

## (2) 各事業拠点

- 1) 「子どもの生活研究所」においては、めばえ学園、こぐま学園、おおらか学園、保育所(すこやか学園、宇奈根なごやか園)の運営を有機的に連携させた「クローバーシステム」を基盤に、世田谷区発達障害相談・療育センター、板橋区立赤塚福祉園、袖ヶ浦のびろ・ひかりの学園との連携を強化し、東京都発達障害者支援センターへの協力をはじめ、人員配置や事業運営を柔軟に行った。また、療育部門においては、平成27年1月に相談支援事業所を開設した。保育部門においては、すこやか本園(ぞう)、分園(くじら・きりん)、宇奈根なごやか園は、法人の保育部門として共通の基盤作りを行った。
- 2) 「東京都発達障害支援センター」においては、前年度に引き続き、本人・家族、関係者への相談といった直接支援業務と共に発達障害に関わる支援者のための理解啓発ならびに育成研修を積極的に進めた。本年度の相談支援の実施状況において特記すべきことは、学校生活から社会へ参加していく過程の躓きに起因する家庭内暴力、引きこもり等についての相談が顕著であった。本年度より、東京都から委託され、地域支援マネージャー事業を実施した。所轄行政機関である東京都福祉保健局障害者施策推進部精神保健・医療課と協力し、区市町村への訪問を実施し、区市町村における支援整備状況の把握から始め、25区市町村を訪問した。
- 3) 「セタック」は、世田谷区発達障害相談・療育センターが中心となり、烏山・桜新町子育てステーション、及び成城・梅ヶ丘発達相談室が連携を取りながら、発達障害児への相談・療育・地域支援を推進していく世田谷区の事業である。年々利用者が拡大し、地域支援事業もその種類や量が増大してきている。今年度は、特に学校教育との連携に力を入れ、区と協働して教育委員会との連携をはかり、教員の研修会や事例検討会で小中学校に出向いて活動する機会を多く得た。
- 4) 「嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦」は、袖ヶ浦のびろ学園、袖ヶ浦ひかりの学園、並びに地域生活支援センターたのしみで構成されており、「袖ヶ浦統括施設長」のもとで一体的に管理・運営されている。袖ヶ浦のびろ学園では、入所利用が減少してきており、短期入所等利用方法が変化してきているが、その療育支援機能の専門性を活かして、困難なケースへの対応など地域ニーズに積極的に応えてきている。本年度は前年度に引き続き、従来からのニーズに加えて、保護者の虐待(ネグレクト)による措置入所のケースが増加した。袖ヶ浦ひかりの学園では、親泉会が法定後見等を行う利用者について三者面談(親、親泉会、学園)を行った。この面談により、さらに職員と親との信頼関係が深まり、利用者の抱える問題を、職員が親と協働して取り組んでいくという意識が強まり、このことより利用者の高齢化に伴う怪我や疾患を予防、あるいは気づきやすくなってきた。地域生活支援センターたのしみは、児童発達支援事業・放課後等ディサービスの利用者数が増加してきていることから、児童発達支援事業の増設を行った。
- 5) 「板橋区立赤塚福祉園」は、デイセンターきらら(生活介護事業)、ワークセンターはばたき(就労継続支援B型事業)、赤塚ホーム(緊急保護事業)からなっており、本年度は、日常的な応援体制の構築等、より一体的な運営を行った。生活介護事業

においては、指定管理者独自事業としての延長サービス実施など、家庭支援の充実に努めた。就労継続支援B型事業においては、ラスク作業や受注作業等での法人内事業所との連携が定着し、強化することができた。緊急保護事業については、通常の利用に加え、介護者の高齢化に伴う急な入院等、緊急を要する要請に応じた利用が多く、職員の確保にあたっては、福祉園全体の協力体制により対応した。地域との関係においては、地域行事にも積極的に参加し、防災対策を含め、より密接な交流を進めることができた。

6) 「清瀬市子どもの発達支援・交流センター」は、清瀬市よりの委託事業であり、相談・療育、地域支援を実施している。子どもの相談・訓練指導を通して成長・発達を援助し、地域での育ちを支えることを目的として運営を行った。また、対象となる本人・家族だけではなく、保育所・幼稚園・学校などの関係者への支援を積極的に行い地域の支援力の向上に寄与する一方、母子保健、福祉、教育機関との連携を推進し、地域療育の拠点となることを目指し、地域活動にも積極的に参加しながら連携に努めた。

7) 「大田区立こども発達センターわかばの家」は、心身の発達に遅れや偏りのある就学前の幼児への早期からの支援を行う機関である。大田区より、一部業務委託を受け、療育事業部門（本館・分館）の運営を開始して3年が経過した。本年度は、新たに、新規事業として「相談支援事業所」（4月開設）と、療育事業の「分室」（10月開設）を受託し、開設を担った。特に相談支援事業所は、18歳までを対象とし、従来の支援の範囲が大きく広がったこともあり、行政や関係機関と頻りに連絡調整や協議を重ね、体制整備と円滑な運営に努めた。その結果、大田区における計画相談支援・障害児相談支援の体制整備が進んだ。

全事業を通して、利用者の満足度も高く、実績が高く評価されている。その実績に基づき、平成27年度から大田区が直営している相談部門を含め、全面業務委託を受けることになり、本年度後半より、その引継ぎを行った。

## 2. 法人本部

### (1) 本部事業

#### 1) 理事会関係

##### ① 理事会並びに評議員会の開催状況

###### ア 理事会

回数	開催日	出席数	議事内容
1	26.4.1	7/7	理事長の選出、常務理事の指名、理事長の職務代行者（2名）の指名
2	26.5.23	5/7	平成25年度事業報告、平成25年度収入支出決算、地域生活支援センターたのしみ運営規程の整備
3	26.6.19	6/7	評議員の委嘱、常務理事の指名、運営資金の借入

4	26. 7. 25	6/7	袖ヶ浦のびろ学園大規模修繕工事実施計画、袖ヶ浦のびろ学園大規模修繕工事実施に係る設計業者の選定、袖ヶ浦のびろ学園大規模修繕工事一般競争入札実施に係る工事予定価格及び最低制限価格の設定、袖ヶ浦のびろ学園大規模修繕工事一般競争入札実施に係る入札参加条件、袖ヶ浦市福祉作業所の指定管理者への応募、施設長人事
5	26. 8. 22	5/7	袖ヶ浦のびろ学園大規模修繕工事実施に係る設計業者の選定
6	26. 9. 18	6/7	平成26年度収入支出補正予算案、定款施行規則制定、諸規程の整備、施設長人事
7	26. 12. 18	5/7	平成26年度収入支出補正予算案、社会福祉法人嬉泉経理規程の全部改正案、基本財産の処分
8	27. 3. 25	6/7	平成26年度収入支出補正予算案、平成27年度事業計画案、平成27年度収入支出予算案、社会福祉法人嬉泉諸規程の整備、施設長人事

イ 評議員会

1	26. 5. 23	11/16	平成25年度事業報告、平成25年度収入支出決算、地域生活支援センターたのしみ運営規程の整備
2	26. 6. 19	14/16	評議員の委嘱、常務理事の指名、運営資金の借入
3	26. 9. 18	12/16	平成26年度収入支出補正予算案、定款施行規則制定、諸規程の整備、施設長人事
4	26. 12. 18	11/16	平成26年度収入支出補正予算案、社会福祉法人嬉泉経理規程の全部改正案、基本財産の処分
5	27. 3. 25	14/16	平成26年度収入支出補正予算案、平成27年度事業計画案、平成27年度収入支出予算案、社会福祉法人嬉泉諸規程の整備、施設長人事

② 監事による監査

ア 監査実施日

- ・事業監査…平成26年5月16日(金)
- ・会計監査…平成26年5月19日(月)

イ 実施場所

- ・事業監査 法人本部（子どもの生活研究所）
- ・会計監査 袖ヶ浦のびろ学園

ウ 監査内容

平成25年度における理事の業務執行状況及び法人の財産状況

エ 監査結果

事業実施報告、決算書、決算附属明細表ならびに財産目録は適正

③ 法人の事務処理体制

ア 経理関係

	会計責任者	出納職員	契約担当者	現金保管責任者
職・氏名	常務理事 石井啓	事務局次長 亀谷一雄	理事長 須藤祐司	事務局次長 亀谷一雄
発令月日	H26. 6. 20	H9. 4. 1		

イ 公印等管理

	代表者印管理	法人印管理
職・氏名	常務理事 石井啓	理事 山崎順子

④ 資金関係

ア 寄付金

寄付者	目的	金額
一般寄付者他	運営費(本部)	6,394,250
一般寄付者他	運営費(施設)	1,672,953
合計		8,067,203

イ 地方公共団体補助金

東京都	サービス推進費他	333,119,545
世田谷区	委託料他	511,371,180
埼玉県	サービス推進費割愛分	1,271,000
千葉県	サービス推進費割愛分他	16,492,812
千葉市	サービス推進費割愛分	4,450,000
袖ヶ浦市	相談支援事業委託料	3,600,000
板橋区	委託料	427,562,000
清瀬市	〃	76,886,000
大田区	〃	299,882,480
狛江市	運営費	306,880
渋谷区	運営費	15,760
西村良枝記念知的障害者福祉基金	助成金	220,000
合計		1,675,177,657

⑤ 実施事業一覧

事業拠点	事業所	施設種別	施設長氏名	定員	職員数
子どもの生活研究所 【療育】	めばえ学園	障害児通所支援（児童発達支援センター）*2	樋口美津子	30	11
	おおらか学園 同 分室	障害福祉サービス事業（生活介護）*2	樋口美津子	26	15
	子どもの生活研究所（相談部・こぐま学園）	児童の福祉増進につき相談に応じる事業		—	6
	児童デイサービス よろこび	障害児通所支援（児童発達支援及び放課後等デイサービス）*2	樋口美津子	10	4

東京都発達障害者支援センター（トスカ）		公益事業	山崎順子	—	4
子どもの生活研究所 【保育】	すこやか園 (ゾウ、クワ、キノ)	認可保育所 *2	稲垣修	96	46
	宇奈根なごやか園	認可保育所 *2	坂田朗	80	18
	すこやか広場	地域子育て支 援拠点事業	稲垣修	—	2
世田谷区発達障害 相談・療育事業 (セタック)	療育センター げんき	公益事業	沼倉実	—	31
	烏山・成城相談室			—	4
	桜新町・梅丘相談室			—	4
嬉泉福祉交流センター 袖ヶ浦	袖ヶ浦のびろ学園	福祉型障害児 入所施設 *1	石井啓	50	42
	短期入所 袖ヶ浦 のびろ学園	障害福祉サー ビス事業（短 期入所）	石井啓		
	袖ヶ浦ひかりの学 園	障害者支援施 設 *1	石井 啓	53	46
	短期入所 袖ヶ浦 ひかりの学園	障害福祉サー ビス事業（短 期入所）	石井 啓		
	地域生活支援セン ター たのしみ	相談支援事 業、障害児通 所支援*2	石井 啓	—	11
	日中一時支援 たのしみ	日中一時支援 事業	石井 啓		
	グループホーム 春のひかり	障害福祉サー ビス事業（共 同生活援助、 共同生活介 護） *2	石井 啓	4	4
板橋区立赤塚福祉園	デイセンター きらら	障害福祉サー ビス事業（生 活介護） *2	小池朗	60	32
	ワークセンター はばたき	障害福祉サー ビス事業（就 労継続支援B 型） *2	小池朗	40	12
	赤塚ホーム	板橋区緊急保 護事業	小池朗	8	11
清瀬市子どもの発達支援交流センター (とことこ)		公益事業	田中慶子	—	8
大田区立こども発達センターわかばの家		公益事業	大岩香代子	—	29

注) 事業の種類 \*1：第一種社会福祉事業

\*2：第二種社会福祉事業

職員数：常勤職員

## 2) 施設整備

### ①嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦

- ・袖ヶ浦のびろ学園大規模修繕(平成26年度 障害者(児)施設整備費補助金)

総事業費 210,497千円

(補助金 141,886千円、自己資金 68,611千円)

- ・エアコン取付

総費用 1,119千円 (自己負担 1,119千円)

- ・大型乾燥機入替

総費用 1,029千円 (自己負担 1,029千円)

### ②子どもの生活研究所[療育]

- ・ビルトインオープン購入(公益信託西村良枝記念知的障害者福祉基金)

総事業費 221千円(補助金 220千円、自己資金 1千円)

- ・全自動・二槽式洗濯機購入(世田谷区福祉施設等支援事業助成金)

総事業費 78千円(補助金 78千円)

## 3) 職員採用

### ①平成27年度新規職員採用の基本的考え方

ア 嬉泉基幹人材確保のため常勤総合職を基本として採用を実施した。

イ 一般公募採用に加え、全職員のネットワークを活用した縁故採用と両輪で実施した。

ウ 本年度から本格的に「マイナビ2015」を稼働させ、新卒ターゲットに早めの採用活動を展開した。

エ 常勤職員の採用活動は、採用係(本部事務局)を中心に、一次面接担当(各事業所に推薦依頼)、実習受け入れ担当(各受け入れ事業所にて指名)にて実施。最終面接は、役員および場長会メンバーを中心に計3~5名にて実施した。

オ 実習試験は、専門性を活かす可能性のある配属先を考慮しつつ、総合職として採用される意識を醸成するため、原則として2ヵ所で行っていたが、採用スケジュールの長期化による応募辞退に繋がるデメリットもあるので、一か所のみで迅速対応する方式も併用した。心理職志望者に関しては、嬉泉の求める心理職として療育現場での実習評価も可能な限り実施するよう努めた。

カ 非常勤職員の採用活動は、各事業所にて行った。

### ②採用業務実施概況

ア 4月5日 就職ウェブサイト「マイナビ2015」を通じて嬉泉にエントリーした学生を対象に第1回就職セミナーを開催した。希望者には採用面接まで進んでもらい出席者の約半数が面接に臨んだ。

参加：42名 面接：20名 実習：17名 内定：4名

イ 5月26日 学校(220校)に対し求人票送付、同時に法人HPにて公募

手続き開始

- ウ 7月12日 第2回就職セミナーを開催した。希望者には面接実施。  
参加：24名 面接12名 実習：12名 内定：6名
- エ 8月30日 第1回採用説明会実施。既卒も含めた公募採用活動として実施した。心理職志望者が増加した。  
参加：25名 面接25名 実習23名 内定11名
- オ 10月2日 成城保育就職相談会（世田谷区・渋谷ハローワーク共催）に参加。既卒保育士1名を採用した。
- カ 10月11日 第2回採用説明会実施。保育士の応募が本格化。  
参加：21名 面接：20名 実習16名 内定7名  
(他に、5名を期中採用した。)
- キ 12月 2日 ハローワーク渋谷・嬉泉共同企画、施設見学会実施。  
34名が参加し、応募に繋がった。
- ク 12月 6日 第3回採用説明会 施設見学会と合わせて87名が参加。採用活動のピークとなった。  
参加：87名 面接：66名 実習：46名 内定：21名  
(他に1名期中採用した。)
- ケ 1月—3月 全体説明会は実施せず、個別対応により採用活動を実施。  
参加：46名 面接：46名 実習：27 内定：17
- コ 累計 参加：235名 面接：189名  
実習：141名 (内27名実習辞退、10名実習後辞退)  
内定：66名 (内5名辞退)  
採用：61名 (内3月採用2名、5月採用4名)

③ 常勤職員採用結果 ※平成27年3月1日～平成27年5月1日付採用

		心理 職	支援 員	保育 士	厨房	事務 等	医務	計
男女別	男	0	8	0	1	2	0	11
	女	15	21	13	1	0	0	50
新既別	既卒	6	13	7	1	2	0	28
	新卒	9	16	6	1	0	0	33
学歴別	院卒	15	0	0	0	0	0	15
	大卒	0	25	6	0	1	0	32
	他	0	4	7	2	1	0	14
	計	15	29	13	2	2	0	61

④ 職員数の推移

平成25年4月1日から平成27年4月1日の間の職員数の推移は下表の通りである。

	常勤職員	非常勤職員	派遣社員	計
平成25年4月1日	327	124	3	454
平成26年4月1日	335	141	2	478
退職	-49	-37	-3	-89
採用	74	49	2	125
平成27年4月1日	360	153	1	514

※嘱託契約（医師等）を除く

#### 4) 職員研修

##### ① 全体研修

##### ア. 自然体験学童合宿研修

本年度は実施しなかった。

##### イ. 療育合宿研修

##### ア) 夏季療育合宿

日時：平成26年8月16日～平成26年8月18日

場所：嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦

テーマ：『ともに暮らす』～安全・安心・安定した生活を求めて

参加利用者：14名

参加職員：32名（合宿総務13名、園長会より2名、合宿メンバー16名）

##### イ) 冬季療育合宿

日時：平成26年12月20日～平成26年12月22日

場所：嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦

テーマ：『伝えながらくらす』

参加利用者：12名

参加職員：34名（合宿総務20名 合宿メンバー14名）

長年、石井哲夫所長のスーパービジョンの元で行われてきた合宿研修であるが、石井所長亡き後、合宿研修を企画するにあたり、今後の合宿研修の持ち方やスーパービジョン機能の補完について検討した。それにより、研修対象を従来の「責任者層の職員」から「新人職員を除く中堅層からの職員」と広げ、スーパーバイザーとして園長会メンバー有志が参加することにした。またテーマについても、基本的なところに立ち返り、職員の実感に基づいた取り組みを重視した。

結果として、ほとんどの職員は、日常とは異なる組織体制の中、合宿生活での利用者との関わりやスーパービジョンを通して、日常の自分を振り返り見つめ直す機会となり、各自の研修目標達成に意欲的に取り組むことができた。一方、一部の職員に、日頃の業務との隔たりが大きく合宿での経験を受け止めにくい様子が見受けられた。法人の事業が拡大し、業務内容や職種も多様になっている現況をふまえ、今後、法人全体研修としてのあり方や進め方を再検討していく必要がある。

##### ウ. 新人研修・全体職員研修

日時：平成27年3月14日～15日

場所：①嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦（14日：新人研修）

## ②浦安ブライトンホテル東京ベイ

(15日:全体職員研修・新規採用職員含む)

テーマ:『我々のなすべきことを考える』

参加職員:①新人研修 87名(平成26年度中途採用職員・平成27年度  
新規採用職員66名、研修係・スタッフ21名)

②全体職員研修 312名(全職員対象・平成27年度新規採用職員含む)

新人研修では、新規採用職員に向けて、「嬉泉の手引き」に基づき、法人の職員としての基本的事項(法人の理念、人権擁護、倫理綱領等)についての周知を図ることと、交流を目的として、「新人オリエンテーション・ガイダンス」、「新人交流セッション」、「夕食作り・懇親会」等を実施した。

全体職員研修では、これからの社会福祉法人嬉泉の在り方と支援の理念を職員一同が共通認識し、職員各人が「何をなすべきか」主体的に考えることを目的として、研修を実施した。「須藤理事長によるメンタルヘルスについての講義」、「受容的交流についてのビデオと講義」、「事業概要説明」、「全職員参加のバズセッション」等、充実した内容となった。

## エ. 職層別研修

日時:平成27年1月31日

場所:子どもの生活研究所

テーマ:「自分たちにとって意味のある研修を自分たちで考えて実施する」

↓

- ① 日常行っている支援とは違った環境で、今までとは違った自分に気づくきっかけ作りのできる研修とする。
- ② 研修に参加することで、他事業所の主任補との交流を積極的に行える研修とする。

参加職員: 35名(各事業所の主任補33名、研修係2名)

事業所や職員数が増大したことで、事業所を超えた職員同士の交流や横のつながりを持つことが難しくなっている状況を鑑み、法人内の事業所の横断的な研修として、昨年度に引き続き、「主任補層」を対象に実施した。なるべく、主体的・自発的な姿勢が持てるよう、「自分たちにとって意味のある研修を自分たちで考えて実施する」というテーマのもと、各事業所から実行委員を選出し、自分たちで企画・運営等を行うようにした。

その経過の中で活発な交流がなされ、職員各自の自我関与の高まりがみられた。また、ねらいに応じた成果が得られ、今後も、事業所の枠を超えた、相互交流の機会を作っていくことの意義が感じられた。

## オ. 事業所間職員交流研修

- ・各拠点における夏祭りや餅つき等の季節行事の際、それぞれ各事業所に職員の研修参加を呼びかけ、随時交流研修を実施した。
- ・大田区立こども発達センターわかばの家から袖ヶ浦と世田谷の事業所へ、夏季の

自主通所期間を利用し、派遣研修を行った。(21名参加)

カ. 事務職員研修

日時：平成27年3月4日(水)

場所：日立システムズ会議室

内容：財務会計、人事、給与システム操作教育研修

参加職員：15名(場長3名を含む)

② 外部研修

ア 全国社会福祉施設経営者協議会主催の経営者研修会

イ 全国社会福祉協議会主催の施設長研修会

ウ 東京都及び千葉県社会福祉協議会主催の各種職員研修会

エ 日本知的障害者福祉協会主催の各種職員研修会

オ 日本自閉症協会主催の職員研修会

カ 全国自閉症者施設協議会大会

キ その他必要に応じた各種研修会

※詳細については各拠点報告に詳述

5) 福利厚生

① 新人職員歓迎会

・目的・内容：花見を通して、新年度より各事業所に配属された新任職員を法人全体で歓迎し、先任職員との交流を行った。

・期日：平成26年4月3日

・場所：子どもの生活研究所

・参加人数：124名

② 年頭所感会

・目的・内容：年頭に当たり、理事長・常務理事より所感と今後の方針が述べられた。その後職員同士の懇親を目的とした着席式のパーティーになり、飲食を交えて歓談した。

・期日：平成27年1月10日(土)

・場所：浦安ブライトンホテル

・参加人数； 255名

③ 次世代育成プロジェクト

・目的：平成23年度より3年間かけ職員が仕事と子育てを両立させることができ、法人全体・各事業所が働きやすい環境をつくることですべての職員がその能力を十分に発揮できるようにするために活動を実施した。

・活動内容：

1) 産前産後休業、育児休業制度等に関わる職員の相談機能設置

(kosodate@Kisenfukushi.com)

・諸制度に纏わる質問窓口

- ・休職中の職員の相談窓口
  - ・収集した情報の一元管理と、情報共有化を図った
- 2) 制度の周知・理解を図るための活動
- ・制度活用のパンフレット作成、各事業所へ配布設置し、管理職・事務担当者の理解促進を図った
- 3) 超過勤務削減の取り組み
- ・毎月給与支給日をノー残業デイ「カエルデイ」とし、管理職への啓発活動を実施
- 4) 平成 26 年 3 月 19 日次世代育成支援対策推進法 第 13 条に基づく 2015 年認定事業主として、厚生労働省（東京都労働局）より認定を受ける
- 5) 平成 26 年 3 月 18 日次世代育成支援対策推進法 第 13 条に基づく第 2 期行動計画の届け出を行った

## 6) 社会に向けての活動

### ① 第 30 回自閉症実践療育セミナー

本年度は実施しなかった。

### ② 「嬉泉の新聞」の発行

「嬉泉の新聞」では、福祉関係有識者・著名人による巻頭言、法人内トピックスの紹介等、法人に関わる各種情報の公開等を行なってきたが、第70号は、石井哲夫前常務理事の追悼号として発行。第71号では、石井啓常務理事より今後の嬉泉の方向性を伝えるとともに、新たに平成27年度より本格的なスタートした相談支援事業について、嬉泉としての取り組みの紹介、会計報告を行なった。作成した新聞は、法人関係者、協力者、関係諸機関・団体等に無料配布している。今年度は、嬉泉をより理解してもらうために、職員採用説明会等でも配布した。

ア 発行状況：第70号（10月号） 第71号（3月号）

イ 発行部数：3,500部×1回 3,000部×1回

ウ 内容

(第 70 号) (石井哲夫追悼号)

主な執筆者 (敬称略)

- ・理事長 須藤祐司

- 巻頭言「石井先生が後に続く者のために熱く語った理念、方法、組織運営」

- ・常務理事 石井啓 「上司と父親の間」

- ・理事 山根美江子 「嬉泉の歴史」

(以下、タイトル省略)

- ・一般社団法人日本自閉症協会会長 山崎晃資

- ・一般社団法人日本自閉症協会前副会長 社会福祉法人けやきの郷 理事長  
須田初枝

- ・社会福祉法人東京福社会 吉岡則重

- ・日本社会事業大学理事長 潮谷義子
- ・社会福祉法人あかりの家 三原憲二
- ・白梅学園大学 教育福祉センター顧問 村田保太郎
- ・一般社団法人日本図書文化協会理事長 真仁田昭
- ・東京家政大学教授 増田まゆみ

他、利用者、保護者、元職員、職員 計20名

(第71号)

- ・巻頭言「石井哲夫先生を偲んで—『平成の糸賀一雄』としての石井哲夫—  
社会福祉法人浴風会理事長 京極高宣
- ・「今後の嬉泉の方向性」 常務理事 石井啓
- ・「石井記念館オープン」
- ・「相談支援事業と『地域生活支援センターたのしみ』での取り組み」
  - ・「平成25年度社会福祉法人嬉泉 決算報告」

③ インターネット・ホームページ管理

「嬉泉新聞」と共に、本法人に関わる各種情報の公開を目的として、よりアップ・トゥ・デイトな情報を発信した。具体的には以下の通り。

ホームページ掲載内容

- ・インフォメーション
- ・嬉泉事業所案内
- ・前常務理事 石井哲夫儀 法人葬終了のお知らせ
- ・アトリエ・アウトス展開催のお知らせ
- ・嬉泉バザー開催のお知らせ
- ・平成25年度運営に関する情報開示
- ・次世代育成プロジェクト、行動計画のお知らせ
- ・職員募集

④ 事業所が増えたこともあり、法人の全事業所を一望できるような総括的なパンフレットを作成することとなった。平成24年度から着手し、各事業所に配置された広報係が協力しつつ、統一感を図るとともに、嬉泉らしさと各事業所の事業内容がわかりやすく伝わるようなデザインとなるように配慮した。A3裏表1枚に集約し沿革・本部事業を合わせて掲載した。

5月に5000部を印刷し、本部及び各事業所において活用している。

⑤ 第50回嬉泉バザー

ア 期日；平成26年10月26日（日）

イ 場所；子どもの生活研究所

ウ 会計報告（単位；円）

係	純益
献品	533,290
手芸	129,440
ミニバザー	58,790
食堂	324,397
広報	121,111
総務	398,841
合計	1,566,869

⑥ 第36回嬉泉祭りバザー

ア 期日；平成26年3月2日（日）

イ 場所；嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦

ウ 会計報告（単位；円）

係	純益
献品	593,336
手芸	67,990
子どもコーナー	47,400
食堂	212,270
広報	144,900
総務	1,205,091
合計	2,270,987

⑦ 苦情解決

ア 苦情解決実績

事業所	件数	解決年月日
袖ヶ浦	2	26.10.11/26.11.8

イ 苦情解決第三者委員

事業所	氏名	性別	推薦区分	職業等
世田谷	高橋利一	男	関係団体	法政大学名誉教授
	小沼肇	男	関係団体	小田原女子短期大学学長
	安藤真洋	男	関係団体	社会福祉法人武蔵野理事長
	金子恵美	女	関係団体	日本社会事業大学准教授
セタック	森下由規子	女	関係団体	明星大学准教授
	長谷川幹	男	関係団体	三軒茶屋リハビリテーションクリニック
袖ヶ浦	村田保太郎	男	関係団体	白梅学園大学名誉教授
	山田美和子	女	関係団体	元全国社会福祉協議会職員
	石原敦夫	男	保護者	伊藤忠商事社員
赤塚	関谷公二	男	地域代表	泉福寺住職（元篠ヶ谷戸町会長）

⑧ 施設オンブズ・パーソン活動の実施

ア 対象施設

袖ヶ浦のびろ学園・袖ヶ浦ひかりの学園

イ 内容

オンブズパーソン3名を委嘱し、両学園の近況報告及び苦情受付担当者からの現状報告、意見交換を行う。

ウ 委員

氏名	性別	推薦区分	職業
村田保太郎	男	関係団体	白梅学園大学名誉教授
山田美和子	女	関係団体	元全国社会福祉協議会職員
石原 敦夫	男	保護者会	伊藤忠商事社員

エ 活動

嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦職員研修会では「明るい人間関係づくり」というテーマで職員に講義をして頂いた。(26.4.30)

⑨ 第三者評価事業の受審

下記施設において、東京都認証機関による第三者評価事業を受審した。

- ア 児童発達支援センター子どもの生活研究所めばえ学園
- イ 生活介護事業所おおらか学園
- ウ 保育所すこやか園
- エ 保育所宇奈根なごやか園
- オ 福祉型障害児入所施設袖ヶ浦のびろ学園
- カ 障害者支援施設袖ヶ浦ひかりの学園
- キ 生活介護事業所デイセンターきらら
- ク 就労継続支援B型事業所ワークセンターはばたき

⑩ アトリエAUTOSの活動内容

- ア 第15回アートフレンズ展 作品出展
  - ・期間；5月20日～25日
  - ・場所；千葉市美術館市民ギャラリー
  - ・主催；千葉幕張ロータリークラブ
- イ アトリエ・アウトス展～自閉症その内的世界の表出Ⅸ～ 主催
  - ・期間；6月18日～24日
  - ・場所；玉川高島屋S・C南館6階ホワイトモール
  - ・企画；東神開発株式会社 ・後援；世田谷区
- ウ さくらなみき自閉症美術館第12回企画展 作品出展
  - ・期間；8月1日～9月28日
  - ・場所；さくらなみき自閉症美術館
  - ・主催；NPO法人いわて発達障害サポートセンターええ町づくり隊
- エ アトリエ・アウトス展 主催
  - ・期間；11月11日～16日
  - ・場所；世田谷美術館区民ギャラリーB
  - ・後援；世田谷区

- オ 植草学園短期大学 学園祭 作品出展  
・期間；11月15日～16日  
・場所；植草学園短期大学
- カ 「はーとふるメッセ実りの集い」作品出展  
・期間；3月8日  
・場所；幕張メッセ  
・主催；千葉県障害者就労支援センター、千葉県
- キ 一般社団法人自閉症協会発行「いとしご」NO.147  
「石井哲夫先生を偲んで」嬉泉アトリエアウトスの作品紹介
- ク 一般社団法人自閉症協会発行「いとしご」NO.148  
市川浩志さん「馬竜アラジン」表紙絵に記載
- ケ 一般社団法人自閉症協会発行「いとしご」NO.149  
支援から「アトリエAUTOSの活動を通して」戸屋 隆 原稿記載
- コ 戸山サンライズ「戸山サンライズ」2014年夏号263号  
自閉症の人の内的世界の表出～アトリエ・AUTOSの取り組みから～  
神保育子 記事掲載
- サ 世界自閉症啓発デー2015ポスター  
浜ノ園武生さんの作品「ゾウの親子」が選出
- シ 世界自閉症啓発デー2016ポスター  
市川浩志さん「アフリンの森」公募展に応募
- ス アートビリティ（社会福祉法人東京コロニー）契約更新  
市川浩志さん、浜ノ園武生さん、持田想一さん
- セ 公益社団法人日本フィランソロピー協会名刺著作権作品の登録継続
- ソ 女子美術大学短期大学部共通プログラム（短期大学部・1年次開設科目）に  
講師依頼される。  
・期間；4月25日、5月2日（計2回）  
・講師；戸屋 隆
- タ 株式会社グラディエ企画  
「世田谷まちづくりファンド キラ星応援コミュニティ部門」へ「futacolab」  
企画案へのアドバイス等相談対応
- チ 株式会社帆風企画 2015年賀状  
「アトリエ アウトス コレクション」としてデザイン採用
- ツ 2015年カレンダー（ポストカード仕様/ポスター仕様）制作販売および配布  
（1000セット作製）

## (2) 社会化基金の事業

### 1) 経過

「地域生活援助ホーム（通称・大泉の家）」について、資産保有の現状から維持・管理を行う必要があり、規約第5条の主旨に則り、引き続き子どもの生活研究所の職員1名を管理人に任命し、宿舍を無償提供することと交換に建物の維持管理に当たらせてた。